



個人参加 動く市政教室 「白鳥と豪農の館」

実施日:令和3年12月9日(木)
市民生活部 広聴相談課

越後平野に広がる田んぼは「ハクチョウ」の生息に重要な役目を果たしてきました。江戸中期に農より身を起こし、全盛期には、一千町歩(千ヘクタール)以上の田畑を有し大地主として栄えた伊藤家の歴史を知ること、市の鳥「ハクチョウ」と伊藤家とのつながりについて考えます。

時間	分	見学施設	所在地
9:30		① 市役所本館 出発	
↓			
9:50		②新潟駅南口バスロータリー 出発	
↓		-車窓より周辺の水田にて水鳥観察-	
10:30~11:10	40	瓢湖(自然観察) 10:30~白鳥おじさんより案内 11:00~えさやり見学	阿賀野市
↓		-車窓より周辺の水田にて水鳥観察-	
11:30~12:30	60	北方文化博物館見学	江南区沢海
↓		-車窓より周辺の水田にて水鳥観察-	
12:50		解散:新潟駅南口 → 市役所本館の順	

	応募数	参加数
12月9日	24	16

参加者からの主な意見・感想

全体を通しての意見・感想

- ・白鳥のえさやり見学およびガイド付き北方文化博物館見学が初めてだった。
- ・瓢湖で白鳥のえさやりを見学し、北方文化博物館ではガイドの話聞くことができ、とても良かった。天気にも恵まれ、車窓からも白鳥を見ることができ、短時間であったが、内容の濃い教室であった。
- ・バス車内の換気等にも気を付けていて、安心して参加できた。
- ・天気も良く、白鳥も多く、白鳥おじさんにも会えたとし、豪農の館は何回訪れても見飽きないと思った。

各施設の意見・感想

【瓢湖】

- ・白鳥おじさんの苦勞が分かった。後継者問題もあるかもしれないが、守っていかなければならないと思った。
- ・瓢湖といえば白鳥。これまで何回も来ていたが、えさやりを見るのは初めてで、圧巻だった。白鳥のためのエサが鴨やほかの水鳥に9割くらい食べられてしまうことに驚いた。また、エサは、昔は茶殻と聞いていたが、食生活が変わりパンくずがメインというのも初めて知った。野生のカモなど手を伸ばせば届きそうな距離で見ることができ良かった。また、水鳥の種類多さと数に驚いた。
- ・冬の新潟はあまり見るところがないが、瓢湖は県外の人や孫たちにも、ぜひ見てもらいたいと思った。
- ・白鳥が飛来してくる要因としての新潟市の環境に、市民としてもっと留意していかなければいけないと感じた。自然との共生について考える機会となった。
- ・30年ぶりくらいの瓢湖だった。平日だからか、観光客が少なく、白鳥をじっくり観察でき嬉しかった。白鳥が、あんなに可愛い顔をして、性格もおっとりしているとは…大好きになった。えさやりを見学できたのも良かった。天気も素晴らしく、楽しく学ぶことができた。
- ・湖沼と水田のどちらも白鳥にとって大切だと分かった。
- ・30年ぶりで改めて白鳥とカモの泳ぐ姿に大感激、テレビや絵葉書とは全然違う感動をもらった。白鳥おじさんも優しく一生懸命エサをやっている姿が印象的だった。とてもきれいな瓢湖を、このまま残していくことができればと改めて感じた。
- ・こんなにも美しい湖なのだということを、今になって知ることができ、とてもうれしかった。

【北方文化博物館】

- ・個人では藤の花の季節に、これまで何回も来ていたが、いつも混雑しており、簡単な観光であった。今回は初冬のせい空いていて、またガイドの説明を聞くことができ、一層理解が深まった。県外の人には、白鳥とセットで案内したいと思った。
- ・代々博物館を守っていくのは大変で維持管理は大切だと思った。
- ・2回目の訪問だったが、全く飽きることなく観覧させてもらった。ガイドの話しぶりもとても好印象だった。当時の伊藤家の力量の大きさに改めて感嘆した。
- ・庭が素晴らしかった。雪の庭も見てみたいと思った。何度か博物館を訪れていたが、今回の説明で扁額の意味など学んだ。
- ・ペンシルバニア大学の先輩・後輩の縁が歴史的建物を存続させたとの話が興味深かった。
- ・座敷や庭園の造り、材料のこと、代々の文吉氏が集めた品々は、新潟の宝物だと思う。

※いただいたご意見等は、広聴相談課でまとめて各見学施設や関係課・者へ伝えます。